

平成26年2月3日

薬事・食品衛生審議会  
食品衛生分科会長 岸 玲子 殿

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会  
農薬・動物用医薬品部会長 大野 泰雄

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会  
農薬・動物用医薬品部会報告について

平成26年1月8日付け厚生労働省発食安0108第9号をもって諮問された、食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づくエトフェンプロックスに係る食品規格（食品中の農薬の残留基準）の設定について、当部会で審議を行った結果を別添のとおり取りまとめたので、これを報告する。

# エトフェンプロックス

今般の残留基準の検討については、農薬取締法に基づく適用拡大申請に伴う基準値設定依頼が農林水産省からなされたことに伴い、食品中の農薬等のポジティブリスト制度導入時に新たに設定された基準値（いわゆる暫定基準）の見直しを含め、食品安全委員会において食品健康影響評価がなされたことを踏まえ、農薬・動物用医薬品部会において審議を行い、以下の報告を取りまとめるものである。

## 1. 概要

(1) 品目名：エトフェンプロックス [ Etofenprox (ISO) ]

(2) 用途：殺虫剤

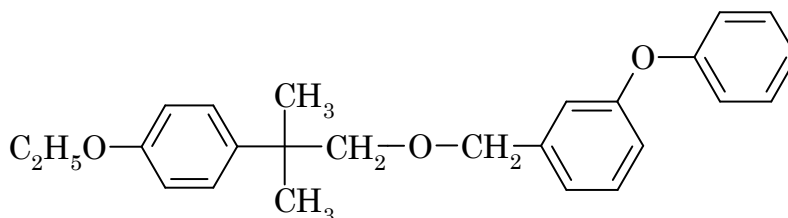
ピレスロイド様の活性を示す殺虫剤である。鱗翅目、半翅目、双翅目等の各種害虫に対して広い殺虫スペクトルを有する。神経軸索におけるナトリウムチャンネルの正常な働きを阻害することにより、殺虫活性を示すものと考えられている。

(3) 化学名：

2-(4-ethoxyphenyl)-2-methylpropyl 3-phenoxybenzyl ether (IUPAC)

1-[[2-(4-ethoxyphenyl)-2-methylpropoxy]methyl]-3-phenoxybenzene (CAS)

(4) 構造式及び物性



分子式	C <sub>25</sub> H <sub>28</sub> O <sub>3</sub>
分子量	376.49
水溶解度	22.5 μg/L (20°C)
分配係数	log <sub>10</sub> Pow = 6.9 (20°C)

## 2. 適用の範囲及び使用方法

本剤の適用の範囲及び使用方法は以下のとおり。

**作物名**となっているものについては、今回農薬取締法（昭和 23 年法律第 82 号）に基づく適用拡大申請がなされたものを示している。

### （1）国内での使用方法

#### ① 0.50%エトフェンプロックス粉剤

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェン <sup>®</sup> プロックスを含む農薬の総使用回数		
稲	—	イネトムシ	4kg/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内		
		カメムシ類 イネスズウムシ成虫 ツマグロヨコバイ ウンカ類 コブノメカ アザミウマ類 イナゴ類 イネトオオムシ ニカメイチュウ	3～4kg/10a						
		イネヒメハメグサリハエ フタオビコヤカ	3kg/10a						
小麦		ヒメトビウンカ アブラムシ類	4kg/10a	収穫 14 日前まで	2 回以内			散布	2 回以内
豆類 (種実)		ハスモンヨトウ マメシクイカ シロイモジマダラメイカ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ダイズサヤマバエ アブラムシ類 フキノメカ							
えだまめ		ハスモンヨトウ	3～4kg/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内			散布	3 回以内
		マメシクイカ シロイモジマダラメイカ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ダイズサヤマバエ	4kg/10a						
やまのいも		シロイモジヨトウ	アヲノメカ	収穫 7 日前まで	4 回以内			散布	4 回以内
かんしょ		ハスモンヨトウ ナカジロシタハ							
とうもろこし	アヲノメカ	3～4kg/10a	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内			
キャベツ	ハスモンヨトウ アブラムシ類 アオムシ								
れんこん	マメコガネ	4kg/10a	収穫 14 日前まで						

② 0.40%エトフェンプロックス粉剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	カメシ類	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内

③ 1.5%エトフェンプロックス粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	イネズゾウムシ イネトヨイムシ イネゾウムシ イネヒハモクリハエ イナコ類 ウカ類 ツマゲゴヨコバイ	2~3kg/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	3回以内
	ニカメイチュウ (第一世代)	3kg/10a				
稲 (箱育苗)	イネズゾウムシ	育苗箱 (30×60×3 cm 使用土壌約5L) 1箱当たり70g	移植当日	3回以内	育苗箱の 苗の上から 均一に散布する	3回以内
さとうきび	ハリガネシ類	9kg/10a	植付時	1回	植溝土壌混和	1回
れんこん	イネネイムシ	3kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	2回以内 (植付時の 土壌混和は 1回以内、 散布は 1回以内)
畑わさび	ナトビムシ		植付時			
			収穫14日前まで	散布		
わさび			畑育苗期 ただし、植 付時	植溝土壌混和		
		畑育苗期	散布			

④ 20%エトフェンプロックス水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	イヌズヅウムシ	100 倍	移植前日～移植当日	3 回以内	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約 5L) 1 箱当たり希釈液 500mL を散布	3 回以内
	ツマグロヨコバイ ウカ類 カメムシ類	2000 倍	収穫 21 日前まで			
りんご	モモンクイガ キンモンホカガ	1000～2000 倍	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	
	ハマキムシ類	2000 倍				
なし	シンクイムシ類 ナシヒビガ アブラムシ類	1000～2000 倍				
	ハマキムシ類	2000 倍				
もも	モモハモクグリガ	1000 倍				
	シンクイムシ類	2000 倍				
くり	クリシギゾウムシ					
かき	カキノハタムシガ チャミノガ	1000～2000 倍				
	ハマキムシ類 カメムシ類 チャノキイロアザミウマ カキクダアザミウマ	1000 倍				

⑤ 20%エトフェンプロックス水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
かんきつ	チャノキイロアザミウマ	2000 倍	200～ 700L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
りんご	モモンクイガ キンモンホカガ	1000～ 2000 倍					
	ハマキムシ類	2000 倍					
なし	シンクイムシ類 ナシヒビガ アブラムシ類	1000～ 2000 倍					
	ハマキムシ類	2000 倍					
もも	モモハモクグリガ	1000 倍					
	シンクイムシ類	2000 倍					
くり	クリシギゾウムシ						
かき	カキノハタムシガ チャミノガ	1000～ 2000 倍		収穫 30 日前まで			
	ハマキムシ類 カメムシ類 チャノキイロアザミウマ カキクダアザミウマ	1000 倍					

⑥ 6.2%エトフェンプロックス、8.0%トリシクラゾール水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ウカ類 ツマグロヨコバイ カメシ類	20倍	3L/10a	収穫 21日前 まで	3回以内	空中散布	3回以内
		5倍	800mL/10a				
	いもち類 ウカ類 カメシ類	原液	150mL/10a			無人ヘリコプター による散布	
		120～180倍	25L/10a			散布	
	いもち病 ウカ類 ツマグロヨコバイ カメシ類	650倍	100～150L/10a				

⑦ 5.0%エトフェンプロックス、20.0%チオファネートメチルフロアブル

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 墨黒穂病 カメシ類 ツマグロヨコバイ コブノメガ	500倍	60～200L/10a	収穫14日 前まで	3回以内	散布	3回以内
	いもち病 紋枯病 カメシ類	4倍	0.8L/10a			無人ヘリコプター による散布	
			空中散布				

⑧ 0.020%エトフェンプロックス・0.040%DBEDC 水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
きゅうり	うどんこ病 アブラムシ類	原液	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
トマト	葉かび病 アブラムシ類			2回以内		2回以内

⑨ 10.0%エトフェンプロックス・10.0%イミベンコナゾール水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
だいず	紫斑病 アブラムシ類 カメシ類 マメシクイガ	1000倍	150～300L /10a	収穫 30日 前 まで	2回以内	散布	2回以内
		8倍	800mL/10a			無人ヘリコプター による散布	

⑩ 20%エトフェンプロックス乳剤

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数	
稲	—	コブノメカ	1000倍	60～150L/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	3回以内	
		ツマグロヨコバイ ウカ類 イネトオムシ イコ類	1000～2000倍						
		カメシ類 イネミスゾウムシ	2000倍						
キャベツ		アオムシ コガ ヨウムシ アブラムシ類	1000～2000倍	100～300L/10a	収穫3日前まで	2回以内		3回以内	
はくさい					収穫7日前まで				
だいこん					収穫21日前まで				
ねぎ		シイモシヨウ	1000倍		収穫14日前まで	3回以内		2回以内	
レタス		アブラムシ類			収穫3日前まで			4回以内	
すいか		アブラムシ類 コジラミ類 ハスモンヨウ ヨウムシ			3回以内				
		メロン			アブラムシ類 コジラミ類	4回以内			
かぼちゃ		コジラミ類			1000～2000倍	収穫前日まで		3回以内	3回以内
なす		アブラムシ類							
ピーマン		アブラムシ類 カメシ類							
オクラ		コジラミ類 アブラムシ類			1000倍			2回以内	2回以内
きゅうり		アブラムシ類 ウリノメカ カメシ類 コジラミ類 ヨウムシ類							
にがうり	コジラミ類								
トマト	シイモシヨウ ヨウムシ ウラナシジミ								
さやえんどう 実えんどう									

⑨ 20%エトフェンプロックス乳剤 (つづき)

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数	
さやいんげん	—	ワアブラムシ ウナミジミ マノメカ	1000倍	100～ 300L/10a	収穫開始 7日前 まで	2回 以内	散布	2回以内	
えだまめ		マシクイカ シロイモシマダラメカ ダイズサヤマハエ カメシ類 フタシヒメハシ ウコンメカ			1000～ 2000倍				収穫14日 前まで
		ハスモンヨトウ							収穫前日 まで
未成熟ささげ		アブラムシ類	1000倍		根株 養成期 ただし、 収穫45日 前まで				
うど				収穫14日 前まで					
モロヘイヤ				アザミウマ類	1回	1回			
かんきつ		コアオナムグリ ケキスイ類	1000～ 2000倍	200～ 700L/10a	収穫14日 前まで	3回 以内		3回以内	
		シソハモグリガ							
		チャノキイロアザミウマ							
小麦		ヒメビウンカ アブラムシ類	2000倍	60～ 150L/10a	2回 以内	2回以内			
とうもろこし		アヲノメカ アヲトウ	1000倍	100～ 300L/10a	収穫7日 前まで	4回 以内		4回以内	
ばれいしょ		アブラムシ類							
かんしょ		ナカジロシタハ アブラムシ類 ハスモンヨトウ							
やまのいも やまのいも (むかご)		アブラムシ類 ヤノイコガ ハスモンヨトウ	1000倍	100～ 300L/10a	収穫14日 前まで	3回 以内		3回以内	
さといも	ハスモンヨトウ								
さといも (葉柄)		収穫7日 前まで							



⑨ 20%エトフェンプロックス乳剤 (つづき)

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数				
豆類 (種実、 ただし、 だいず、 あずきを 除く)	—	マシクイガ アブラムシ類 シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤマハエ カメシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミジミ フキノメイガ	1000 倍	100～ 300L/10a	収穫 14 日 前まで	2 回 以内	散布	2 回以内				
だいず		マシクイガ アブラムシ類 シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤマハエ カメシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミジミ フキノメイガ ウコンノメイガ										
あずき		マシクイガ アブラムシ類 シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤマハエ カメシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミジミ ノメイガ類										
しょうが		ハスモンヨトウ							100～150L /10a	収穫 7 日 前まで	3 回 以内	3 回以内
葉しょうが										収穫 14 日 前まで		
ふき										コナジラミ類 フキノメイガ ヨウムシ		
せり (水耕栽培)		ガラス室等 の施設							アブラムシ類	2000 倍	100～ 300L/10a	収穫 30 日 前まで
せり	水田	オナワイケモトギ	収穫 14 日 前まで	3 回 以内	3 回以内							
みずいも												
あしたば	—	アブラムシ類	2000 倍	100～ 300L/10a	収穫 14 日 前まで	3 回 以内	3 回以内					

⑨ 20%エトフェンプロックス乳剤 (つづき)

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	エトフェン <sup>®</sup> ロックス を含む農薬の 総使用回数
みつば	—	アブラムシ類	1000 倍	100～ 300L/10a	収穫21日 前まで ただし、 伏せ込み 栽培は伏 せ込み前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
てんさい		ヨウムシ	1000～ 2000 倍		収穫 14 日 前まで	3 回以内		3 回以内
茶		チャノホカ チャノミドリヒメコバイ チャノキイロアザミウマ	2000 倍	200～ 400L/10a	摘採 21 日 前まで	2 回以内		2 回以内
マンゴー		チャノキイロアザミウマ	1000 倍	200～ 700L/10a	収穫 7 日 前まで	3 回以内		3 回以内
稲		ウンカ類	300～ 600 倍	25L/10a	収穫 21 日 前まで			
		ツマグロヨコバイ イネミスズウムシ イネトオイトムシ	300 倍					
	カメムシ類	600 倍						

⑪ 10%エトフェンプロックス乳剤

作物名	適用場所	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	エトフェンプロックス を含む農薬の 総使用回数
稲		ウンカ類 ツマグロヨコバイ イナゴ類 イネトヨイムシ カメムシ類 イネミズゾウムシ コブノメイガ	1000倍	60～ 150L/10a	収穫21日 前まで	3回以内		3回以内
		ウンカ類 ツマグロヨコバイ	300倍	25L/10a				
小麦	—	アブラムシ類		60～ 150L/10a	収穫14日 前まで	2回以内	散布	2回以内
やまのいも					収穫7日 前まで	3回以内		3回以内
ばれいしょ		マメシクイガ ハスモンヨトウ カメムシ類			収穫14日 前まで	2回以内		2回以内
だいず					ウラナシジミ シロイモジヨトウ			
えだまめ		コジラミ類 アブラムシ類						
さやえんどう					アブラムシ類			
実えんどう		アブラムシ類						
きゅうり					アブラムシ類			
すいか		アブラムシ類						
メロン					アブラムシ類			
トマト		アブラムシ類						
なす					アブラムシ類			
キャベツ		アブラムシ類 ヨウムシ アオムシ						
はくさい					アブラムシ類			
だいこん		アブラムシ類						
ねぎ					シロイモジヨトウ			
レタス		アブラムシ類			3回以内	3回以内		
てんさい		ヨウムシ			2回以内			
エンサイ		イモガ						
うど		アブラムシ類			根株 養成期 ただし、 収穫45日 前まで	2回以内		2回以内

⑫ 10%エトフェンプロックス乳剤

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	エトフェンプロックス を含む農薬の 総使用回数
稲	コブノメガ イコノ類 ウカ類 カメシ類 ツマグロヨコバイ	8 倍	3L/10a	収穫 14 日 前まで	3 回以内	空中散布	3 回以内
	イコノ類 ウカ類 カメシ類 ツマグロヨコバイ						
	ウカ類 カメシ類 ツマグロヨコバイ コブノメガ イコノ類						
小麦	ヒメヒウカ					無人ヘリコプター による散布	2 回以内
だいず	ハモシヨウ カメシ類			収穫 14 日 前まで	2 回以内		
あずき	フキノメガ						
しょうが	アヲノメガ		1.6L/10a	収穫 7 日 前まで	3 回以内		3 回以内
やまのいも	ヤマノモコガ アブラムシ類		3.2L/10a	収穫 14 日 前まで			

⑬ 4.0%エトフェンプロックス油剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	エトフェンプロックス を含む農薬の 総使用回数
稲	イネズヅウムシ イネトヨイムシ	200～300mL/10a	移植後 20 日以降 (ただし 5 葉期 以後)収穫 21 日 前まで	3 回 以内	原液を田面水 に滴下又は 入水時水口に 滴下	3 回以内
	ウカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイト第 1 世代	500mL/10a				
	イコノ類	300～500mL/10a				

⑭ 4.0%エトフェンプロックス油剤

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	エトフェンプロックス を含む農薬の 総使用回数
稲	イネズヅウムシ イネトヨイムシ	水溶性容器 4～6 個 (200～300mL)/10a	5 葉期以降 収穫 21 日 前まで	3 回以内	本田に 水溶性容器 のまま 投げ入れる	3 回以内
	ウカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイト第 1 世代	水溶性容器 10 個 (500mL)/10a				
	イコノ類	水溶性容器 6～10 個 (300～500mL)/10a				

⑮ 20%エトフェンプロックスマイクロカプセル剤

作物名	適用場所	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	エトフェン <sup>®</sup> ロックス を含む農薬の 総使用回数
稲	—	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	1000～ 2000 倍	60～ 150L/10a	収穫 21 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
		カメシ類 イネトオムシ	2000 倍					
		イコ類 コブメカ	1000 倍					
		ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメシ類	600 倍	25L/10a				
ばれいしょ		アブラムシ類	1000 倍	100～ 300L/10a	収穫 7 日 前まで	2 回以内		2 回以内
だいず えだまめ		カメシ類 ハスモンヨトウ マメシクイガ			収穫 14 日 前まで			
きゅうり		アブラムシ類 ウリノメカ			収穫 前日まで	3 回以内		3 回以内
なす		アブラムシ類			収穫 3 日 前まで			
キャベツ	ハイダバラノメカ アオムシ ヨウムシ	収穫 7 日 前まで						
はくさい	アブラムシ類 ヨウムシ	収穫 21 日 前まで						
だいこん	ヨウムシ	収穫 14 日 前まで						
てんさい		収穫 14 日 前まで						

⑩ 20%エトフェンプロックスマイクロカプセル剤

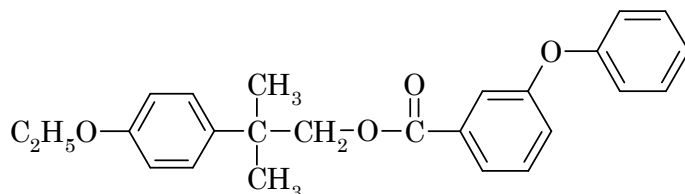
作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 カメムシ類 ツマグロヨコバイ	60倍	3L/10a	収穫21日前まで	3回以内	空中散布	3回以内
	カメムシ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ イナゴ類	16倍	0.8L/10a				
	カメムシ類 ヒメトビウンカ						
小麦	アブラムシ類						
だいた	ハスモンヨトウ カメムシ類	8~16倍		収穫14日前まで	2回以内	無人ヘリコプターによる散布	2回以内
	マメシクイガ	8倍					
		16倍	1.6L/10a				
てんさい	ヨトウガ				3回以内		3回以内

### 3. 作物残留試験

#### (1) 分析の概要

##### ① 分析対象の化合物

- ・エトフェンプロックス
- ・2-(4-エトキシフェニル)-2-メチルプロピル=3-フェノキシベンゾエート  
(以下、代謝物IVという。)



代謝物IV

##### ② 分析法の概要

###### エトフェンプロックス

試料からアセトンで抽出し、*n*-ヘキサンに転溶した後、フロリジルカラムで精製する。トリメチルシリルヨードと反応させて、3-フェノキシベンジルヨードに変換した後、*n*-ヘキサンに転溶し、フロリジルカラムで精製後、ガスクロマトグラフ (ECD) 又は高速液体クロマトグラフ (UV) で定量する。

または、試料からアセトンで抽出し、ヘキサン等に転溶後、必要に応じてヘキサン/アセトニトリル分配を行う。フロリジルカラム又はゲル浸透クロマトグラフィー (GPC) 及びフロリジルカラムで精製し、高速液体クロマトグラフ (UV)、液体クロマトグラフ・質量分析計 (LC-MS) 又はガスクロマトグラフ・質量分析計 (GC-MS) で定量する。

あるいは、試料からアセトンで抽出し、多孔性けいそう土カラムで精製した後、高速液体クロマトグラフ (UV)、LC-MS、液体クロマトグラフ・タンデム型質量分析計 (LC-MS/MS) で定量する。

###### 代謝物IV

試料からアセトンで抽出し、*n*-ヘキサンに転溶した後、シリカゲルカラムで精製する。2 mol/L 水酸化カリウム溶液とイソプロパノール中で加熱還流して加水分解し、3-フェノキシ安息香酸に変換する。更に 2, 2, 2-トリクロロエタノールと無水トリフルオロ酢酸中で加熱して 2, 2, 2-トリクロロエチル *m*-フェノキシベンゾエートに変換し、ヘキサンに転溶後、ガスクロマトグラフ (ECD) で定量する。

または、試料からアセトンで抽出し、*n*-ヘキサン等に転溶した後、必要に応じてヘキサン/アセトニトリル分配を行う。フロリジルカラムで精製し、高速液体クロマトグラフ (UV)、LC-MS 又は GC-MS で定量する。

あるいは、試料からアセトン抽出後、多孔性けいそう土カラムで精製し、LC-MS 又は LC-MS/MS で定量する。

代謝物IVについては、換算係数 0.964 を用いてエトフェンプロックスに換算した値を示す。

定量限界 エトフェンプロックス：0.004～0.02 ppm  
代謝物IV：0.01ppm

## (2) 作物残留試験結果

国内で実施された作物残留性試験結果の概要を、別紙1にまとめた。

## 4. 魚介類への推定残留量

本剤については水系を通じた魚介類への残留が想定されることから、農林水産省から魚介類に関する個別の残留基準の設定について要請されている。このため、本剤の水産動植物被害予測濃度<sup>注1)</sup>及び生物濃縮係数(BCF: Bioconcentration Factor)から、以下のとおり魚介類中の推定残留量を算出した。

なお、生物濃縮試験(ブルーギルにおける流水式試験)において、魚抽出物(可食部、非可食部)からは親化合物が確認されている。

### (1) 水産動植物被害予測濃度

本剤が水田及び水田以外のいずれの場合においても使用されることから、水田PECTier2<sup>注2)</sup>及び非水田PECTier1<sup>注3)</sup>を算出したところ、水田PECTier2は0.0058ppb、非水田PECTier1は0.036ppbとなったことから、非水田PECTier1の0.036ppbを採用した。

### (2) 生物濃縮係数

エトフェンプロックス(高濃度区: 0.001mg/L、低濃度区: 0.0002mg/L)を用いた60日間の取込期間及び62日間の排泄期間を設定したブルーギルの魚類濃縮性試験が実施された。エトフェンプロックスの分析の結果から、BCF<sub>ss</sub><sup>注4)</sup>は4,260(高濃度区)、3,956(低濃度区)と算出された。

### (3) 推定残留量

(1)及び(2)の結果から、エトフェンプロックスの水産動植物被害予測濃度: 0.036ppb、BCF: 4260とし、下記のとおり推定残留量が算出された。

$$\text{推定残留量} = 0.036 \text{ ppb} \times (4260 \times 5) = 766.8 \text{ ppb} \approx 0.77 \text{ ppm}$$

注1) 農薬取締法第3条第1項第6号に基づく水産動植物の被害防止に係る農薬の登録保留基準設定における規定に準拠

注2) 水田中や河川中での農薬の分解や土壌・底質への吸着、止水期間等を考慮して算出したもの。

注3) 既定の地表流出率、ドリフト率で河川中に流入するものとして算出したもの。

注4) BCF<sub>ss</sub>: 定常状態における被験物質の魚体中濃度と水中濃度の比で求められたBCF。



(参考)：平成19年度厚生労働科学研究費補助金食品の安心・安全確保推進研究事業「食品中に残留する農薬等におけるリスク管理手法の精密化に関する研究」分担研究「魚介類への残留基準設定法」報告書

## 5. 畜産物の推定残留量

本剤については、飼料として給与した作物を通じ家畜の筋肉等への移行が想定されることから、農林水産省から畜産物に関する個別の残留基準の設定について要請されている。このため、飼料の最大給与割合等から算出した飼料中の残留農薬濃度と動物飼養試験の結果を用い、以下のとおり畜産物中の推定残留量を算出した。

### (1) 飼料中の残留農薬濃度

飼料及び飼料添加物の成分規格等に関する省令（昭和 51 年農林省令第 35 号）に定める飼料一般の成分規格等と飼料の最大給与割合等から、飼料の摂取によって家畜が暴露されうる飼料中の残留農薬濃度を算出した。

成分規格等で定められている基準値上限まで飼料中にエトフェンプロックスが残留している場合を仮定し、これに飼料の最大給与割合等を掛け合わせるにより飼料中の最大理論的飼料由来負荷 (MTDB)<sup>注)</sup> を算出したところ、肉牛において 10ppm、乳牛において 13ppm、採卵鶏において 0.56ppm、肉用鶏において 0.46ppm と推定された。

また、飼料作物における作物残留試験のデータから推定される量のエトフェンプロックスが残留していると仮定し、これに飼料の最大給与割合等を掛け合わせるにより飼料中の平均的な残留農薬濃度を算出したところ、肉牛において 4.2ppm、乳牛において 3.65ppm、採卵鶏において 0.05ppm、肉用鶏において 0.07ppm と推定された。ただし、個別の作物残留試験結果が得られていない飼料作物については、MTDB と同様に、成分規格等で定められている基準値上限まで飼料中に農薬が残留している場合を仮定し、算出した。

注) 最大理論的飼料由来負荷 (Maximum Theoretical Dietary Burden :MTDB)：飼料として用いられる全ての飼料品目に残留基準まで残留していると仮定した場合に、飼料の摂取によって畜産動物が暴露されうる最大量のこと。飼料中残留濃度として表示される。

(参考：Residue Chemistry Test Guidelines OPPTS 860.1480 Meat/Milk/Poultry/Eggs)

### (2) 動物飼養試験(家畜残留試験)

今回、畜産物中の推定残留量を算出するにあたって、1993 年に JMPR において評価された際に用いられた乳牛の飼養試験の結果等を参照した。

乳牛に対して、エトフェンプロックスが 0.5、1.5 及び 50ppm 含有する飼料を 28 日間にわたり摂食させ、筋肉、脂肪、肝臓、腎臓及び乳に含まれるエトフェンプロックス含量を測定した。結果については表 1 を参照。

表 1. 乳牛の組織中の最大残留量 (ppm)

	0.5ppm 投与群	1.5ppm 投与群	50ppm 投与群
筋肉	<0.05 (最大・平均)	<0.05 (最大・平均)	0.35 (最大) 0.18 (平均)
脂肪	0.54 (最大) 0.38 (平均)	2 (最大) 1.23 (平均)	14 (最大) 9.82 (平均)
肝臓	<0.05 (最大・平均)	<0.05 (最大・平均)	0.63 (最大) 0.41 (平均)
腎臓	<0.05 (最大・平均)	0.05 (最大) 0.05 (平均)	1.16 (最大) 0.62 (平均)
乳 (平均)	<0.05	0.05	1.3

産卵鶏における移行性試験は実施されていないが、別途代謝試験が実施されている。産卵鶏に対し、異なる2種類の部位を<sup>14</sup>Cで標識したエトフェンプロックス([2-<sup>14</sup>C-プロピル]エトフェンプロックス及び[α-<sup>14</sup>C-ベンジル]エトフェンプロックス)を等量混合したカプセルを14日間にわたり経口投与(低用量群:0.15mg(飼料中1ppm相当)、高用量群:1.5mg(飼料中10ppm相当))し、投与終了24時間後の筋肉、脂肪、肝臓及び鶏卵に含まれるエトフェンプロックス含量を測定した。結果については表2を参照。

表 2. 産卵鶏の組織中の最大残留量 (ppm)

	1 ppm 投与群	10 ppm 投与群
筋肉	— (分析未実施)	0.013
脂肪	0.188	1.671
肝臓	0.011	0.051
卵 (卵黄) (平均)	0.0725	0.7085

### (3) 推定残留量

乳牛、肉牛、肉用鶏及び産卵鶏について、MTDBと各試験における投与量から、畜産物中の推定残留量(最大値)を算出した。また、飼料中の平均的な残留農薬濃度と各試験の投与量から、畜産物中の平均的な残留量を算出した。結果については、表3-1及び表3-2を参照。

表 3-1 畜産物中の推定残留量；牛

	脂肪	筋肉	肝臓	腎臓	乳
乳牛	4.9 (1.6)	0.12 (0.056)	0.19 (0.066)	0.32 (0.075)	0.35 (0.105)
肉牛	4.2 (1.7)	0.10 (0.057)	0.16 (0.070)	0.25 (0.082)	
最大値	4.9 (1.7)	0.12 (0.057)	0.19 (0.070)	0.32 (0.082)	0.35 (0.105)

上段：最大残留濃度 (ppm) 下段：平均的な残留農薬濃度 (ppm)

表 3-2 畜産物中の推定残留量；鶏

	脂肪	筋肉	肝臓	卵
肉用鶏	0.087 (0.013)	0.004 (0.004)	0.005 (0.001)	
産卵鶏	0.11 (0.010)	0.004 (0.004)	0.006 (0.001)	0.041 (0.004)
最大値	0.11 (0.013)	0.004 (0.004)	0.006 (0.001)	0.041 (0.004)

上段：最大残留濃度 (ppm) 下段：平均的な残留農薬濃度 (ppm)

## 7. ADIの評価

食品安全基本法（平成15年法律第48号）第24条第1項第1号及び第2項の規定に基づき、食品安全委員会あて意見を求めたエトフェンプロックスに係る食品健康影響評価について、以下のとおり評価されている。

無毒性量：3.1 mg/kg 体重/day

（動物種） マウス

（投与方法） 混餌

（試験の種類） 発がん性試験

（期間） 2年間

安全係数：100

ADI：0.031 mg/kg 体重/day

発がん性試験において、ラットの雌で甲状腺ろ胞細胞腺腫が認められたが、遺伝毒性試験が全て陰性であったこと及びメカニズム試験の結果より、腫瘍の発生機序は遺伝毒性メカニズムとは考え難く、評価に当たり閾値を設定することは可能であると考えられた。

## 8. 諸外国における状況

1993年にJMPRにおける毒性評価が行われ、ADIが設定されている。国際基準はりんご、なし等に設定されている。

米国、カナダ、欧州連合（EU）、オーストラリア及びニュージーランドについて調査した結果、米国において米に、EUにおいてりんご、ぶどう等に基準値が設定されている。

## 9. 基準値案

### (1) 残留の規制対象

エトフェンプロックスとする。

農作物については、一部を除いてほとんどの適用作物の作物残留試験において、代謝物Ⅳの残留濃度はエトフェンプロックス（親化合物）と比較して低いことが確認されている。

畜産物については、授乳期ヤギを用いた代謝試験及び産卵鶏を用いた反復投与後の体内運命試験において、各組織中への残留物質は主にエトフェンプロックス（親化合物）であることが確認されている。また、代謝物Ⅳを用いた乳汁への移行試験において、代謝物Ⅳの乳汁への移行は確認されなかった。

魚介類については、ブルーギルを用いた生物濃縮試験において、魚抽出物からはエトフェンプロックス（親化合物）が確認されており、代謝物Ⅳは検出されていない。

なお、代謝物Ⅳはラットを用いた単回経口投与代謝試験において、親化合物と比較して代謝及び排泄が急速で、48時間以内に99%以上が排泄され、かつ体内残留量も有意に低いことが確認されている。また、血漿中濃度に対する脂肪中濃度の比率も低い。さらに、ラット、マウス、イヌ、ヒトの*in vitro*試験で代謝物Ⅳから代謝物Ⅷ（3-フェノキシ安息香酸）に速やかに変換されることが明らかとなった。

JMPRにおいても、農産物及び畜産物における規制対象をエトフェンプロックス（親化合物のみ）としている。

以上から、規制対象物質としては、エトフェンプロックス（親化合物）のみとすることとした。

なお、食品安全委員会による食品健康影響評価においても、農産物、畜産物及び魚介類中の暴露評価対象物質としてエトフェンプロックス（親化合物のみ）を設定している。また、代謝物Ⅳの毒性は、親化合物と同等又はそれ以下であると判断されている。

### (2) 基準値案

別紙2のとおりである。

### (3) 暴露評価

作物残留試験成績等がある食品については推定される平均的な量まで、それ以外の食品については基準値案の上限の量までエトフェンプロックスが残留していると仮定し、国民栄養調査結果における各食品の平均摂取量に基づき試算される、1日当たり摂取する農薬の量の ADI に対する比は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙 3 参照。

なお、本暴露評価は、各食品分類において、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下に行った。

	EDI / ADI (%) <sup>注)</sup>
国民平均	35.7
幼小児 (1~6 歳)	68.5
妊婦	28.6
高齢者 (65 歳以上)	38.3

注) 作物残留試験成績等がある食品については EDI 試算、それ以外の食品については TMDI 試算を行った。

TMDI 試算法：基準値案×各食品の平均摂取量

EDI 試算法：作物残留試験成績から推定される残留量×各食品の平均摂取量

(4) 本剤については、平成 17 年 11 月 29 日付け厚生労働省告示第 499 号により、食品一般の成分規格 7 に食品に残留する量の限度（暫定基準）が定められているが、今般、残留基準の見直しを行うことに伴い、暫定基準は削除される。

## エトフェンプロックス 作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 注1)	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	【エトフェンプロックス/代謝物IV】	
水稲 (玄米)	2	20%水和剤+ 1.5%粒剤+ 20%乳剤	150倍育苗箱散布0.5L/箱 水面施用4kg/10a 1000倍散布200L/10a	1+1+3回	21, 27日	圃場A:0.13*/0.01**(*5回, 21日、**5回, 27日) (#) 注2)	
					21, 28日	圃場B:0.13*/<0.01*(5回, 21日) (#)	
水稲 (玄米)	2	20%水和剤+ 1.5%粒剤	100倍育苗箱散布0.7L/箱 散布6kg/10a	1+1回	114日	圃場A:<0.01/<0.01 (#)	
					98日	圃場B:<0.01/<0.01 (#)	
水稲 (玄米)	2	1.5%粒剤	散布4kg/10a	5回	21日	圃場A:0.01/<0.01 (#)	
						圃場B:<0.01/<0.01 (#)	
水稲 (玄米)	2	0.5%粉剤	散布4kg/10a	5回	14, 21, 27日	圃場A:<0.01*/<0.01*(5回, 14日) (#)	
					14, 19, 26日	圃場B:0.01*/0.02*(5回, 14日) (#)	
水稲 (玄米)	2	0.5%粉剤	散布4kg/10a	3回	7, 14日	圃場A:<0.01/-	
						圃場B:<0.01/-	
水稲 (玄米)	2	4.0%油剤	原液水面滴下0.5L/10a	3回	43日	圃場A:<0.01/-	
					42日	圃場B:<0.01/-	
水稲 (玄米)	2	4.0%油剤	原液水面滴下0.75L/10a	3回	21日	圃場A:<0.01/- (#)	
						圃場B:<0.01/- (#)	
水稲 (玄米)	2	20%乳剤	2000倍散布 200L/10a	5回	21, 28日	圃場A:0.30*/<0.01*(5回, 21日) (#)	
						圃場B:0.01*/<0.01*(5回, 21日) (#)	
水稲 (玄米)	2	20%乳剤	1000倍散布 200L/10a	3回	21, 28日	圃場A:0.06*/-(3回, 21日) (#)	
						圃場B:0.04*/-(3回, 21日) (#)	
水稲 (玄米)	2	20%乳剤	1000倍散布 144, 142L/10a	3回	21日	圃場A:0.05/<0.01	
						圃場B:0.14/<0.01	
水稲 (玄米)	2	20%乳剤	200倍 <sup>フ</sup> - <sup>ム</sup> ス <sup>フ</sup> レー <sup>フ</sup> 散布 25L/10a	3回	21日	圃場A:0.046/- (#)	
						圃場B:0.015/- (#)	
水稲 (玄米)	2	20%乳剤	1000倍散布 125L/10a	3回	21日	圃場A:0.065/-	
						圃場B:0.022/-	
水稲 (玄米)	2	20%乳剤	300倍 <sup>フ</sup> - <sup>ム</sup> ス <sup>フ</sup> レー <sup>フ</sup> 散布 25L/10a	3回	21, 28日	圃場A:0.03/-	
						圃場B:0.12/-	
水稲 (玄米)	2	10%乳剤	1000倍散布 200L/10a	3回	21, 28日	圃場A:0.068*/0.01*(3回, 21日) (#)	
						圃場B:0.064*/0.01*(3回, 21日) (#)	
水稲 (玄米)	2	10%乳剤	200倍 <sup>フ</sup> - <sup>ム</sup> ス <sup>フ</sup> レー <sup>フ</sup> 散布 25L/10a	3回	21日	圃場A:0.022/- (#)	
						圃場B:0.020/- (#)	
水稲 (玄米)	2	10%乳剤	8倍無人 <sup>ヘリ</sup> 散布 8L/ha	3回	21日	圃場A:0.010/-	
					23日	圃場B:0.015/-	
水稲 (玄米)	2	10%乳剤	8倍無人 <sup>ヘリ</sup> 散布 0.8L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:0.02/-	
					圃場B:0.01*/-(3回, 21日)		
水稲 (玄米)	2	10%水和剤	原液空中散布0.1L/10a	1回	37日	圃場A:<0.01/- (#)	
						圃場B:<0.01/- (#)	
水稲 (玄米)	2	10%水和剤	1000倍散布 100L/10a	1回	37日	圃場A:<0.01/- (#)	
						圃場B:<0.01/- (#)	
水稲 (玄米)	2	10%水和剤	1000倍散布 150L/10a	4回	21, 28日	圃場A:0.070/- (4回, 21日) (#)	
						圃場B:0.023/- (4回, 21日) (#)	
水稲 (玄米)	2	10%水和剤	1000倍散布 150L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:0.023/- (3回, 14日) (#)	
						圃場B:0.03/- (3回, 14日) (#)	
水稲 (玄米)	2	6.2%水和剤	620倍散布 150, 146L/10a	3回	21日	圃場A:0.09/0.01	
						圃場B:0.07/<0.01	
水稲 (玄米)	2	6.2%水和剤	120倍 <sup>フ</sup> - <sup>ム</sup> ス <sup>フ</sup> レー <sup>フ</sup> 散布 25L/10a	3回	21日	圃場A:0.016/-	
						圃場B:0.009/-	
水稲 (玄米)	2	6.2%水和剤	600倍散布 125L/10a	3回	21日	圃場A:0.011/-	
						圃場B:0.016/-	
水稲 (玄米)	2	20%マイクロカプセル剤	1000倍散布 150L/10a	3回	21, 28日	圃場A:0.046/0.02	
						圃場B:0.02/0.02	
水稲 (玄米)	2	20%マイクロカプセル剤	16倍空中散布 0.78, 0.8L/10a	1回	22日	圃場A:<0.01/-	
					27日	圃場B:<0.01/-	
水稲 (玄米)	2	20%マイクロカプセル剤	2000倍散布 100L/10a	1回	22日	圃場A:0.010/-	
					27日	圃場B:0.018/-	
水稲 (玄米)	2	20%マイクロカプセル剤	2000倍散布 100L/10a	1回	27日	圃場A:<0.01/-	
					28日	圃場B:<0.01/-	
水稲 (玄米)	2	20%マイクロカプセル剤	16倍無人 <sup>ヘリ</sup> 散布 0.8L/10a	1回	27日	圃場A:<0.01/-	
					28日	圃場B:<0.01/-	

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 注1) 【エトフェンプロックス/代謝物IV】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
水稲 (玄米)	2	20%マイクロカプセル剤	300倍フー-ムスフーレーキ-散布 25L/10a	3回	21日	圃場A:0.01/- (#) 圃場B:<0.01/- (#)
	2	20%マイクロカプセル剤	1500倍散布 125L/10a	3回	21日	圃場A:0.02/- 圃場B:0.04/-
水稲 (玄米)	2	20%マイクロカプセル剤	16倍無人ヘリ散布 0.8L/10a	3回	14, 21日	圃場A:0.02/- 圃場B:0.02/-
水稲 (玄米)	2	6.2%水和剤+ 0.5%粉剤	620倍散布150L/10a 散布4kg/10a	2+1回	7, 14, 21日	圃場A:0.04*/<0.01 (*3回, 14日) 圃場B:0.02/<0.01
水稲 (玄米)	2	20%マイクロカプセル剤 +0.5%粉剤	1000倍散布150L/10a 散布4kg/10a	2+1回	7, 14, 21日	圃場A:0.04/<0.01 圃場B:0.04/<0.01
水稲 (玄米)	2	20%乳剤+ 0.5%粉剤	1000倍散布150L/10a 散布4kg/10a	2+1回	7, 14, 21日	圃場A:0.06*/<0.01 (*3回, 14日) 圃場B:0.04/<0.01
水稲 (玄米)	2	10%乳剤+ 0.5%粉剤	8倍無人ヘリ散布0.8L/10a 散布4kg/10a	2+1回	7, 14, 21日	圃場A:0.01/<0.01 圃場B:0.01/<0.01
小麦 (種実)	2	20%乳剤	2000倍散布 200L/10a	2回	14, 21, 28日 13, 21, 29日	圃場A:0.022*/- (*2回, 14日) (#) 圃場B:0.160*/- (*2回, 13日) (#)
	2	10%乳剤	8倍無人ヘリ散布 0.8L/10a	2回	7日	圃場A:0.086/- (#) 圃場B:0.101/- (#)
小麦 (種実)	2	20%乳剤	2000倍散布 100L/10a	2回	7日	圃場A:0.260/- (#) 圃場B:0.37/- (#)
	2	20%マイクロカプセル剤	16倍無人ヘリ散布 0.8L/10a	2回	14, 21, 30日 14, 21, 28日	圃場A:0.03/- 圃場B:0.01*/- (*2回, 21日)
小麦 (玄麦)	2	20%乳剤	2000倍散布 150, 120L/10a	2回	14, 21日	圃場A:0.14/0.01 圃場B:0.04/0.02
小麦 (玄麦)	2	20%マイクロカプセル剤	16倍無人ヘリ散布 0.8L/10a	2回	14, 21日	圃場A:0.02/<0.01 圃場B:0.02/<0.01
とうもろこし (未成熟雌穂)	2	20%乳剤	1000倍散布 250L/10a	4回	7, 14日	圃場A:<0.01/<0.01 圃場B:0.06/<0.01
とうもろこし (乾燥種実)	2	20%乳剤	1000倍散布 250L/10a	4回	7, 14日	圃場A:0.04*/0.04* (*4回, 14日) 圃場B:<0.01/<0.01
だいず (乾燥子実)	2	20%乳剤	1000倍散布 150L/10a	2回	14日 13日	圃場A:0.01/<0.01 圃場B:<0.01/<0.01
	2	10%乳剤	4倍無人ヘリ散布 0.97~1.04, 0.82~0.83L/10a	2回	14日 15日	圃場A:<0.01/- (#) 圃場B:0.034/- (#)
だいず (乾燥子実)	2	10%乳剤	8倍無人ヘリ散布 0.8L/10a	2回	14日	圃場A:<0.004/<0.01 圃場B:<0.004/<0.01
だいず (乾燥子実)	2	20%マイクロカプセル剤	1000倍散布 150L/10a	2回	14日	圃場A:0.006/<0.01 圃場B:0.060/0.01
だいず (乾燥子実)	2	20%マイクロカプセル剤	1000倍散布 150L/10a	2回	14日 13日	圃場A:0.014/- 圃場B:0.04/-
	2	20%マイクロカプセル剤	1000倍散布 200L/10a	2回	14, 21日	圃場A:0.02/- 圃場B:<0.01/-
だいず (乾燥子実)	1	20%マイクロカプセル剤	1000倍散布 150L/10a	2回	14, 21日	圃場A:0.012/-
	1	20%乳剤	1000倍散布 150L/10a	2回	14, 21日	圃場A:0.014/-
だいず (乾燥子実)	2	20%マイクロカプセル剤	8倍無人ヘリ散布 0.8L/10a	2回	14, 21日	圃場A:<0.02/- 圃場B:<0.02/-
だいず (乾燥子実)	2	10%フアフル剤	1000倍散布 150, 200L/10a	2回	13, 20, 27日 14, 21, 28日	圃場A:<0.01*/- (*2回, 13日) 圃場B:<0.01*/- (*2回, 14日)
	2	10%フアフル剤	8倍無人ヘリ散布 0.8L/10a	2回	13, 20, 27日 14, 21, 28日	圃場A:<0.01*/- (*2回, 13日) 圃場B:<0.01*/- (*2回, 14日)
だいず (乾燥子実)	2	10%フアフル剤	1000倍散布 200, 178L/10a	2回	14, 21, 28日	圃場A:<0.01*/<0.01* (*2回, 14日) 圃場B:<0.01*/<0.01* (*2回, 14日)
あずき (乾燥子実)	1	20%乳剤	1000倍散布 150L/10a	3回	14日	圃場A:0.010/0.01 (#)
あずき (乾燥子実)	1	20%乳剤	1000倍散布 150L/10a	5回	14日	圃場B:<0.01/<0.01 (#)
あずき (乾燥子実)	2	20%乳剤	1000倍散布 90, 100L/10a	1回	14日	圃場A:0.004/- 圃場B:0.004/-
あずき (乾燥子実)	2	10%乳剤	8倍無人ヘリ散布 2.0, 1.9L/10a	1回	14日	圃場A:0.004/- 圃場B:0.004/-

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 注1) 【エトフェンプロックス/代謝物IV】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
らっかせい (乾燥子実)	2	20%乳剤	1000倍散布 200, 156.25L/10a	3回	14, 21日	圃場A:<0.01*/-( <sup>*</sup> 3回, 14日) (#) 圃場B:<0.01*/-( <sup>*</sup> 3回, 14日) (#)
らっかせい (乾燥子実)	2	20%乳剤	1000倍散布 177, 183L/10a	2回	14日	圃場A:<0.01/<0.01 圃場B:<0.01/<0.01
ばれいしょ (塊茎)	2	20%乳剤	1000倍散布 150, 300L/10a	3回	7, 14日	圃場A:<0.01/<0.01 圃場B:<0.01/<0.01
ばれいしょ (塊茎)	2	20%マイクロカプセル剤	1000倍散布 200, 300L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:<0.01/- 圃場B:<0.01/-
ばれいしょ (塊茎)	2	20%マイクロカプセル剤	1000倍散布 180, 175L/10a	3回	7日	圃場A:<0.01/<0.01 圃場B:<0.01/<0.01
さといも (球茎)	2	20%乳剤	1000倍散布 250L/10a	3回	14日	圃場A:<0.005/<0.01 圃場B:<0.005/<0.01
みずいも (塊茎)	2	20%乳剤	1000倍散布 150L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:<0.005/- 圃場B:0.007/-
みずいも (塊茎)	2	20%乳剤	1000倍散布 100L/10a	3回	14日	圃場A:<0.01/<0.01 圃場B:<0.01/<0.01
かんしょ (塊根)	2	20%乳剤	1000倍散布 150L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:<0.01/- 圃場B:<0.01/-
かんしょ (塊根)	2	20%乳剤	1000倍散布 188, 175L/10a	3回	7日	圃場A:<0.01/<0.01 圃場B:<0.01/<0.01
やまのいも (塊茎)	2	20%乳剤	1000倍散布 350, 250L/10a	3回	14日	圃場A:<0.005/<0.01 圃場B:<0.005/<0.01
やまのいも (塊茎)	2	20%乳剤	1000倍散布 350L/10a	1回	13, 22日 14, 21日	圃場A:<0.005*/<0.01*( <sup>*</sup> 1回, 13日) 圃場B:<0.005/<0.01
やまのいも (塊茎)	2	10%乳剤	8倍無人ヘリ散布 3.2L/10a	1回	13, 22日 14, 21日	圃場A:<0.005*/<0.01*( <sup>*</sup> 1回, 13日) 圃場B:<0.005/<0.01
ながいも (塊茎)	1	0.5%粉剤	4kg/10a散布	2回	23日	圃場A:<0.03/-
てんさい (根部)	2	20%乳剤	1000倍散布 150L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:0.01/<0.01 圃場B:0.10/<0.01
てんさい (根部)	2	20%マイクロカプセル剤	1000倍散布 150, 200L/10a	3回	14, 21日	圃場A:0.08*/-( <sup>*</sup> 3回, 21日) 圃場B:0.06*/-( <sup>*</sup> 3回, 21日)
てんさい (根部)	2	20%マイクロカプセル剤	8倍無人ヘリ散布 1.6L/10a	3回	14, 21日	圃場A:0.051*/-( <sup>*</sup> 3回, 14日) (#) 圃場B:0.01*/-( <sup>*</sup> 3回, 21日) (#)
てんさい (根部)	2	20%マイクロカプセル剤	1000倍散布 200L/10a	3回	14日	圃場A:0.04/<0.01 圃場B:0.08/0.01
さとうきび (茎)	2	1.5%粒剤	植付前植溝処理9kg/10a + 散布9kg/10a	1+2回	45日	圃場A:0.005/<0.01 (#) 圃場B:0.007/<0.01 (#)
だいこん (根部)	1	20%乳剤	1000倍散布 150L/10a	3回	21日	圃場A:<0.01/<0.01
だいこん (葉部)	1	20%乳剤	1000倍散布 150L/10a	3回	21日	圃場A:0.54/0.14
だいこん (根部)	2	20%乳剤	1000倍散布 150L/10a	3回	21, 30日 23, 28日	圃場A:0.01/0.02 圃場B:<0.01*/<0.01*( <sup>*</sup> 3回, 23日)
だいこん (葉部)	2	20%乳剤	1000倍散布 150L/10a	3回	21, 30日 23, 28日	圃場A:0.07/<0.01 圃場B:0.03*/<0.01*( <sup>*</sup> 3回, 23日)
だいこん (根部)	2	20%乳剤	1000倍散布 150L/10a	3回	21, 30日	圃場A:0.01*/-( <sup>*</sup> 3回, 30日) 圃場B:0.03/-
だいこん (葉部)	2	20%乳剤	1000倍散布 150L/10a	3回	21, 30日	圃場A:0.042/- 圃場B:1.12/-
だいこん (根部)	2	20%マイクロカプセル剤	1000倍散布 176~180, 150L/10a	3回	21日 20日	圃場A:<0.01/- 圃場B:0.02/-
だいこん (葉部)	2	20%マイクロカプセル剤	1000倍散布 176~180, 150L/10a	3回	21日 20日	圃場A:3.14/- 圃場B:0.84/-
だいこん (根部)	2	20%マイクロカプセル剤	1000倍散布 200, 167L/10a	3回	21日	圃場A:0.06/0.01 圃場B:0.05/0.02
だいこん (葉部)	2	20%マイクロカプセル剤	1000倍散布 200, 167L/10a	3回	21日	圃場A:1.56/0.20 圃場B:1.00/0.24
はくさい (茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 200, 300~400L/10a	3回	7, 14, 22日 7, 14, 21日	圃場A:0.12/<0.01 圃場B:0.18*/0.01*( <sup>*</sup> 3回, 7日) (#)
はくさい (茎葉)	2	20%マイクロカプセル剤	1000倍散布 300L/10a	3回	7, 14日	圃場A:2.32/- 圃場B:2.02/-



農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 注1) 【エトフェンプロックス/代謝物IV】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
はくさい (茎葉)	2	20%マイコカブ <sup>®</sup> セル剤	1000倍散布 250L/10a	3回	7, 14日	圃場A: 1.79/0.16* (*3回, 14日) 圃場B: 2.88*/0.27* (*3回, 14日)
キャベツ (葉球)	2	20%乳剤	1000倍散布 200, 250L/10a	3回	3, 7, 14日	圃場A: 0.31/<0.01 圃場B: 0.20/<0.01
キャベツ (茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 200L/10a	3回	3, 7, 14日	圃場A: 0.019/- 圃場B: 0.394/-
キャベツ (茎葉)	2	10%乳剤	1000倍散布 200L/10a	3回	3, 7, 14日	圃場A: 0.024/- 圃場B: 0.192/-
キャベツ (茎葉)	2	20%マイコカブ <sup>®</sup> セル剤	1000倍散布 150~200, 208L/10a	3回	3, 7, 14日	圃場A: 0.08/- 圃場B: 0.26/- (*3回, 7日)
キャベツ (茎葉)	2	20%マイコカブ <sup>®</sup> セル剤	1000倍散布 300, 250L/10a	3回	3, 7, 14日	圃場A: 0.34/0.02 圃場B: 0.12/<0.01
畑わさび (根及び根茎)	2	1.5%粒剤	植付時植溝土壌混和 3kg/10a + 散布3kg/10a	1+1回	14, 21日	圃場A: <0.2/- 圃場B: 0.5/-
畑わさび (根及び根茎)	2	1.5%粒剤	植付時植溝土壌混和 3kg/10a 1回 散布3kg/10a 1回	1+1回	14, 21日	圃場A: 0.08/<0.01 圃場B: 0.34/<0.01
レタス (茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 150L/10a	3回	14日	圃場A: 0.75/- 圃場B: 0.05/-
レタス (茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 300, 222・247・185L/10a	3回	14, 21日	圃場A: 1.20/0.10 圃場B: 0.50/0.03
ふき (茎)	2	20%乳剤	1000倍散布 200L/10a	3回	14日	圃場A: 0.56/0.01 圃場B: 0.51/0.01
葉ねぎ (茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 150L/10a	2回	21日	圃場A: 0.30/- 圃場B: 1.00/-
ねぎ (茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 150L/10a	2回	21日	圃場A: 0.437/- 圃場B: 0.179/0.15
葉ねぎ (茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 150L/10a	2回	21日	圃場A: 0.062/0.02 圃場B: 0.028/0.03
みつば (茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 300, 150L/10a	2回	21, 28, 35日 20, 28, 35日	圃場A: 2.4/- 圃場B: 1.6/-
みつば (茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 100・150L/10a	2回	21, 30日	圃場A: 1.27/0.020 圃場B: 2.54/0.067
せり (茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 300, 150L/10a	2回	28, 35日	圃場A: 0.3*/- (*2回, 28日) 圃場B: 0.7*/- (*2回, 28日)
せり (茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 100, 100・150L/10a	2回	28日 28, 35日	圃場A: 0.02/<0.01 圃場B: 0.21*/<0.01* (*2回, 28日)
あしたば (茎葉)	2	20%乳剤	2000倍散布 300L/10a	3回	14, 21日	圃場A: <0.20/- 圃場B: <0.20/-
あしたば (茎葉)	2	20%乳剤	2000倍散布 227.3, 222L/10a	3回	14日	圃場A: 0.01/<0.01 圃場B: 0.01/<0.01
トマト (果実)	2	20%乳剤	1000倍散布 300, 250L/10a	2回	1, 3, 7日	圃場A: 0.609*/0.02* (*2回, 3日) 圃場B: 0.264*/0.01 (*2回, 3日)
ピーマン (果実)	2	20%乳剤	1000倍散布 200, 300L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 1.710/- 圃場B: 2.660/-
ピーマン (果実)	2	20%乳剤	1000倍散布 200, 250L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 1.40*/0.05** (*3回, 3日、**3回, 7日) 圃場B: 2.77/0.06
なす (果実)	2	20%乳剤	1000倍散布 200L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.64/<0.01 圃場B: 0.16/<0.01
なす (果実)	2	20%マイコカブ <sup>®</sup> セル剤	1000倍散布 183, 300L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.258/- 圃場B: 0.305/-
なす (果実)	2	20%マイコカブ <sup>®</sup> セル剤	1000倍散布 297, 292L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.32/<0.01 圃場B: 0.32*/<0.01 (*3回, 3日)
きゅうり (果実)	2	20%乳剤	1000倍散布 250L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.13/0.02 圃場B: 0.18/<0.01
きゅうり (果実)	2	20%マイコカブ <sup>®</sup> セル剤	1000倍散布 300, 220.4~251.8L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.162/- 圃場B: 0.54/-
きゅうり (果実)	2	20%マイコカブ <sup>®</sup> セル剤	1000倍散布 200, 286L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.24/<0.01 圃場B: 0.18/<0.01
かぼちゃ (果実)	2	20%乳剤	1000倍散布 200L/10a	3回	1, 3, 7日 1, 4, 7日	圃場A: 0.49/<0.01 圃場B: 0.126/<0.01
すいか (果肉)	2	20%乳剤	1000倍散布 95~200, 200L/10a	3回	3, 7日	圃場A: <0.01/- 圃場B: <0.01/-

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 注1) 【エトフェンプロックス/代謝物IV】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
すいか (果肉)	2	20%乳剤	1000倍散布 204~280, 280L/10a	3回	3, 7, 14日	圃場A:<0.01/<0.01 圃場B:<0.01/<0.01
メロン (果肉)	2	20%乳剤	1000倍散布 400L/10a	4回	3, 7日	圃場A:0.039*/-( <sup>*</sup> 4回, 7日) (#) 圃場B:0.021*/-( <sup>*</sup> 4回, 3日) (#)
メロン (果肉)	2	20%乳剤	1000倍散布 279・283, 300L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:0.03*/<0.01 ( <sup>*</sup> 4回, 14日) 圃場B:0.04*/<0.01 ( <sup>*</sup> 4回, 7日)
にがうり (果実)	2	20%乳剤	1000倍散布 100~200, 202L/10a	3回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.56/- 圃場B:0.20/-
にがうり (果実)	2	20%乳剤	1000倍散布 228, 256L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:0.23/<0.01 圃場B:0.14/<0.01
オクラ (果実)	2	20%乳剤	1000倍散布 200L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:1.10/0.10 圃場B:0.16/0.10
しょうが (根茎)	2	20%乳剤	1000倍散布 150L/10a	3回	7, 14日	圃場A:<0.01/<0.01 圃場B:0.054/0.01
しょうが (根茎)	2	20%乳剤	1000倍散布 200L/10a	1回	7, 14日	圃場A:0.007/<0.01 圃場B:0.007/<0.01
	2	10%乳剤	8倍無人ヘリ散布 1.6L/10a	1回	7, 14日	圃場A:<0.005/<0.01 圃場B:<0.005/<0.01
葉しょうが (塊茎及び茎)	2	20%乳剤	1000倍散布 200L/10a	3回	14, 21日	圃場A:0.12/- 圃場B:0.13/-
葉しょうが (塊茎及び茎)	2	20%乳剤	1000倍散布 187, 180L/10a	3回	14, 21日	圃場A:0.74/0.06 圃場B:0.14/0.04
さやえんどう (さや)	2	20%乳剤	1000倍散布 150L/10a	2回	1, 7, 14, 21日	圃場A:0.40/<0.01 圃場B:1.05/0.02
さやいんげん (さや)	2	20%乳剤	1000倍散布 150L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.860/0.12 圃場B:0.218/0.01
えだまめ (果実)	2	20%乳剤	1000倍散布 150L/10a	2回	14, 21日	圃場A:1.08/0.04 圃場B:1.02/0.03
えだまめ (果実)	2	20%マイクロカプセル剤	1000倍散布 150L/10a	2回	14, 21, 28日	圃場A:0.720*/-( <sup>*</sup> 2回, 21日) 圃場B:1.150/-
えだまめ (果実)	2	20%マイクロカプセル剤	1000倍散布 150, 153~196L/10a	2回	14, 21, 28日	圃場A:0.67/0.02 圃場B:1.09/0.12
れんこん (根茎)	2	1.5%粒剤	4kg/10a散布	3回	14, 21, 28日	圃場A:<0.01/<0.01 (#)
					14, 21日	圃場B:0.010/<0.01 (#)
れんこん (根茎)	2	0.5%粉剤	4kg/10a散布	3回	14, 21, 28日	圃場A:<0.01/<0.01
					14, 21日	圃場B:<0.01/<0.01
エンサイ (茎葉)	2	10%乳剤	1000倍散布 250L/10a	2回	14, 21日	圃場A:0.32/- 圃場B:0.64/-
エンサイ (茎葉)	2	10%乳剤	1000倍散布 260L/10a	2回	14, 21日	圃場A:0.99/<0.01 圃場B:1.56/<0.01
やまのいも (むかご)	2	20%乳剤	1000倍散布 300L/10a	3回	14, 21, 30日	圃場A:2.40/- 圃場B:1.58/-
やまのいも (むかご)	2	20%乳剤	1000倍散布 200L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:0.72/0.20 圃場B:0.35/0.17
未成熟ささげ (さや)	2	20%乳剤	1000倍散布 250L/10a	2回	1, 3, 7日	圃場A:2.8/- 圃場B:1.9/-
					1, 3, 7日	圃場A:2.58/0.01 圃場B:2.44/0.01
モロヘイヤ (茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 220, 204L/10a	1回	14日	圃場A:0.65/- 圃場B:0.16/-
モロヘイヤ (茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 190, 180L/10a	1回	14日	圃場A:0.02/0.01 圃場B:0.10/0.04
さといも葉柄 (葉柄)	2	20%乳剤	1000倍散布 200L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:0.3/- 圃場B:0.2/-
					7, 14, 21日	圃場A:0.54/0.06 圃場B:0.41/0.02
うど (軟化茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 300L/10a	2回	195, 202日	圃場A:<0.02*/-( <sup>*</sup> 2回, 195日)
					199, 206日	圃場B:<0.02*/-( <sup>*</sup> 2回, 199日)
うど (軟化茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 200L/10a	2回	42日	圃場A:<0.01/- 圃場B:<0.01/-
						圃場A:<0.01/- 圃場B:<0.01/-
うど (軟化茎葉)	2	10%乳剤	1000倍散布 200L/10a	2回	42日	圃場A:<0.01/- 圃場B:<0.01/-

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 注1) 【エトフェンプロックス/代謝物IV】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
うど (軟化茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 200L/10a	2回	45日	圃場A:<0.01/<0.01
					43日	圃場B:<0.01/<0.01
温州みかん (果肉)	2	20%乳剤	1000倍散布 500, 800L/10a	3回	14, 20, 28日	圃場A:0.03/<0.01
					14, 21, 28日	圃場B:0.02*/<0.01>(*3回, 21日)
温州みかん (果皮)	2	20%乳剤	1000倍散布 500, 800L/10a	3回	14, 20, 28日	圃場A:6.90/0.52
					14, 21, 28日	圃場B:11.40/0.69
なつみかん (果実全体)	2	20%乳剤	1000倍散布 600, 500L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:1.06*/0.29*(3回, 28日)
						圃場B:1.01*/0.29*(3回, 21日)
すだち (果実)	1	20%乳剤	1000倍散布 500L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:2.70/-
すだち (果実)	1	20%乳剤	1000倍散布 500L/10a	3回	15, 21, 28日	圃場A:1.90*/0.02*(3回, 15日)
かぼす (果実)	1	20%乳剤	1000倍散布 640L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:0.98/-
かぼす (果実)	1	20%乳剤	1000倍散布 615L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:2.89*/0.04*(3回, 21日)
りんご (果実)	2	20%水和剤	1000倍散布 600, 500L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:0.39/0.25
						圃場B:0.80/0.22*(3回, 21日)
なし (果実)	2	20%水和剤	1000倍散布 400, 500L/10a	3回	14, 21, 27, 41日	圃場A:0.72/0.20
					14, 21, 28, 42日	圃場B:0.62/0.14
もも (果肉)	2	20%水和剤	1000倍散布 400L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:0.02/0.02*(3回, 21日)
						圃場B:0.02*/0.01*(3回, 21日)
もも (果皮)	2	20%水和剤	1000倍散布 400L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:7.22*/1.17*(3回, 21日)
						圃場B:7.44/0.75
かき (果実)	2	20%水和剤	1000倍散布 500L/10a	3回	28, 42日	圃場A:0.72*/0.10*(3回, 28日)
					27, 42日	圃場B:0.85*/0.12*(3回, 27日)
マンゴー (果実)	2	20%乳剤	1000倍散布 400, 300L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:2.00/-
						圃場B:1.51/-
マンゴー (果実)	2	20%乳剤	1000倍散布 360, 500L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:0.65/<0.01
						圃場B:2.24/0.08
くり (果実)	2	20%乳剤	1000倍散布 500, 400L/10a	4回	8, 14, 20日	圃場A:<0.01*/<0.01*(4回, 8日) (#)
					8, 14, 22日	圃場B:<0.01*/<0.01*(4回, 8日) (#)
茶(覆下) (荒茶)	2	20%乳剤	1000倍散布 200L/10a	2回	21日	圃場A:1.62/0.12 (#)
						圃場B:3.98/0.16 (#)
茶(覆下) (浸出液)	2	20%乳剤	1000倍散布 200L/10a	2回	21日	圃場A:<0.02/- (#)
畑わさび (花及び花茎)	2	1.5%粒剤	植付時植溝土壌混和 3kg/10a + 散布3kg/10a	1+1回	14, 21日	圃場A:0.2/-
						圃場B:<0.1/-
畑わさび (花及び花茎)	2	1.5%粒剤	植付時植溝土壌混和 3kg/10a 1回 + 散布3kg/10a 1回	1+1回	14, 21日	圃場A:0.15/0.04
						圃場B:0.09/0.04
畑わさび (葉(葉柄含))	2	1.5%粒剤	植付時植溝土壌混和 3kg/10a + 散布3kg/10a	1+1回	14, 21日	圃場A:0.2/-
						圃場B:0.2/-
畑わさび (葉(葉柄含))	2	1.5%粒剤	植付時植溝土壌混和 3kg/10a 1回 + 散布3kg/10a 1回	1+1回	14, 21日	圃場A:0.18/0.07
						圃場B:0.34/0.10

注1) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を複数の圃場で実施し、それぞれの試験から得られた残留量。（参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に係る意見具申」）  
表中、最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付しているが、経時的に測定されたデータがある場合において、収穫までの期間が最短の場合にのみ最大残留量が得られるとは限らないため、最大使用条件以外で最大残留量が得られた場合は、その使用回数及び経過日数について（ ）内に記載した。  
注2) (#)：これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。なお、適用範囲内で実施されていない試験条件を斜体で示した。  
注3) 今回、新たに提出された作物残留試験成績に網を付けて示している。

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
米(玄米をいう。)	0.5	0.5	○			0.03,0.12(\$)
小麦	0.5	0.5	○			0.14(\$),0.04
大麦	0.5	0.5				
ライ麦	0.5	0.5				
とうもろこし	0.5	0.5	○	0.05		
そば		0.5				
その他の穀類		0.5				
大豆	0.2	0.2	○	0.05		(らっかせい参照) (らっかせい参照) <0.01,<0.01 (らっかせい参照)
小豆類	0.2	0.2	○	0.05		
えんどう	0.05	0.1	○			
そら豆	0.05	0.1	○	0.05		
らっかせい	0.05	0.1	○			
その他の豆類	0.05	0.1	○	0.05		
ばれいしょ	0.1	0.1	○			<0.005,<0.005(やまのいも)/ <0.03(ながいも)
さといも類(やつがしらを含む。)	0.1	0.1	○			
かんしょ	0.1	0.1	○			
やまいも(長いもをいう。)	0.1	0.1	○			
こんにやくいも		0.1				
その他のいも類		0.1				
てんさい	0.5	0.5	○			
さとうきび	0.1	0.1	○			
だいこん類(ラディッシュを含む。)の根	2	2	○			2.32,2.02
だいこん類(ラディッシュを含む。)の葉	10	10	○			
かぶ類の根	2	2				
かぶ類の葉	10	10				
西洋わさび		0.5				
クレソン		2				
はくさい	5	5	○			
キャベツ	2	2	○			
芽キャベツ	2	2				
ケール		2				
こまつな		2				
きょうな		2				
チンゲンサイ		2				
カリフラワー		2				
ブロッコリー		2				
その他のあぶらな科野菜	1	2	○			
ごぼう		0.5				1.20,0.50 0.56,0.51(ふき)
サルシフィー		0.5				
アーティチョーク		2				
チコリ		2				
エンダイブ		2				
しゅんぎく		2				
レタス(サラダ菜及びちしやを含む。)	2	2	○			
その他のきく科野菜	2	2	○			
ねぎ(リーキを含む。)	2	2	○			0.30,1.00(葉ねぎ)
にら		2				
アスパラガス		2				
わけぎ	2	2				
その他のゆり科野菜		2				
にんじん		0.5				2.4,1.6 0.3,0.7(\$)(せり)
パースニップ		0.5				
パセリ		2				
セロリ		2				
みつば	5	2	申			
その他のせり科野菜	2	2	○			
トマト	2	2	○			0.609(\$),0.264 1.71,2.66 0.64,0.16
ピーマン	5	5	○			
なす	2	2	○			
その他のなす科野菜		5				

食品名	基準値案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
きゅうり(ガーキンを含む。)	2	2	○			0.49,0.126
かぼちゃ(スカッシュを含む。)	1	2	○			
しろり						
すいか	2	2	○			
メロン類果実	2	2	○			
まくわうり	2	2				
その他のうり科野菜	1	2	○			
ほうれんそう		2				1.10(\$),0.16 0.74,0.14(葉しょうが) 0.40,1.05 0.860,0.218 1.08,1.02
たけのこ		0.5				
オクラ	3	5	○			
しょうが	2	2	○			
未成熟えんどう	2	2	○			
未成熟いんげん	2	5	○			
えだまめ	5	5	○			
その他の野菜	5	5	○			2.58,2.44(未成熟ささげ)
みかん	2	2	○			(すだち参照) (すだち参照) (すだち参照) (すだち参照) (すだち参照) 2.7,1.90(すだち)
なつみかんの果実全体	5	5	○			
レモン	5	5	○			
オレンジ(ネーブルオレンジを含む。)	5	5	○			
グレープフルーツ	5	5	○			
ライム	5	5	○			
その他のかんきつ類果実	5	5	○			
りんご	2	2	○	0.6		0.39,0.80 0.72,0.62 (日本なし参照)
日本なし	2	2	○	0.6		
西洋なし	2	2	○	0.6		
マルメロ		2				
びわ		1				
もも	2	2	○			0.6
ネクタリン	0.6	2		0.6		
ぶどう	4			4		0.72,0.85
かき	2	2	○			
バナナ		2				2.00,1.51
キウイ		0.2				
パパイヤ		2				
アボカド		2				
パイナップル		2				
グアバ		2				
マンゴー	5	2	申			
パッションフルーツ		2				
なたね	0.01			0.01		
ぎんなん		0.1				
くり	2	2	○			
ペカン		0.1				
アーモンド		0.1				
くるみ		0.1				
その他のナッツ類		0.1				
茶	10	10	○			1.62,3.98(荒茶)
その他のスパイス	20	5	○			6.90,11.40(\$) (みかんの果皮)
その他のハーブ	0.7	5	○			0.2,0.2,0.18,0.34(\$) (畑わさび(葉))
牛の筋肉	0.5	0.5				推:0.12
豚の筋肉	0.5	0.5				(牛の筋肉参照)
その他の陸棲哺乳類に属する動物の筋肉	0.5	0.5				(牛の筋肉参照)
牛の脂肪	7	7		0.5		推:4.9
豚の脂肪	7	7		0.5		(牛の脂肪参照)
その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪	7	7		0.5		(牛の脂肪参照)
牛の肝臓	0.5	0.5		0.05		推:0.19
豚の肝臓	0.5	0.5		0.05		(牛の肝臓参照)
その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓	0.5	0.5		0.05		(牛の肝臓参照)

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
牛の腎臓	0.5	0.5		0.05		推:0.32
豚の腎臓	0.5	0.5		0.05		(牛の腎臓参照)
その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓	0.5	0.5		0.05		(牛の腎臓参照)
牛の食用部分	0.5	0.5		0.05		(牛の肝臓、腎臓参照)
豚の食用部分	0.5	0.5		0.05		(牛の肝臓、腎臓参照)
その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用部分	0.5	0.5		0.05		(牛の肝臓、腎臓参照)
乳	0.5	0.5		0.02		推:0.35
鶏の筋肉	0.01	0.01		0.01		推:0.004
その他の家きんの筋肉	0.01	0.01		0.01		(鶏の筋肉参照)
鶏の脂肪	0.5	0.5				推:0.11
その他の家きんの脂肪	0.5	0.5				(鶏の脂肪参照)
鶏の肝臓	0.02	0.02		0.01		推:0.006
その他の家きんの肝臓	0.02	0.02		0.01		(鶏の肝臓参照)
鶏の腎臓	0.02	0.02		0.01		(鶏の肝臓参照)
その他の家きんの腎臓	0.02	0.02		0.01		(鶏の肝臓参照)
鶏の食用部分	0.02	0.02		0.01		(鶏の肝臓参照)
その他の家きんの食用部分	0.02	0.02		0.01		(鶏の肝臓参照)
鶏の卵	0.1	0.1		0.01		推:0.041
その他の家きんの卵	0.1	0.1		0.01		(鶏の卵参照)
魚介類	0.8	0.8				推:0.77
干しぶどう	8			8		

平成17年11月29日厚生労働省告示第499号において新しく設定した基準値については、網をつけて示した。

本基準(暫定基準以外の基準)を見直す基準値案については、太枠線で囲んで示した。

「登録有無」の欄に「申」の記載があるものは、農薬の登録申請等の基準値設定依頼がなされたものであることを示している。

(#)これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。

(\$)これらの作物残留試験は、試験成績のばらつきを考慮し、この印をつけた残留値を基準値策定の根拠とした。

「作物残留試験」欄に「推」の記載のあるものは、推定残留量であることを示している。

エトフェンプロックス推定摂取量 (単位: μg/人/day)

Table with 11 columns: 食品名, 基準値案 (ppm), 暴露評価に用いた数値 (ppm), 国民平均 TMDI, 国民平均 EDI, 幼小児 (1~6歳) TMDI, 幼小児 (1~6歳) EDI, 妊婦 TMDI, 妊婦 EDI, 高齢者 (65歳以上) TMDI, 高齢者 (65歳以上) EDI. Rows include various food items like rice, wheat, soybeans, and fruits, ending with a summary row '計' and 'ADI比 (%)'.

高齢者及び妊婦については摂取量データの一部がないため、国民平均の摂取量を参考とした。

TMDI: 理論最大1日摂取量 (Theoretical Maximum Daily Intake)

EDI: 推定1日摂取量 (Estimated Daily Intake)

●: 個別の作物残留試験がないことから、暴露評価を行うにあたり基準値 (案) の数値を用いた。

ぶどう及びなたねについては、JMPRの評価に用いられた残留試験データを用いてEDIを試算した。

茶については、浸出液における作物残留試験結果を用いてEDIを試算した。

「陸棲哺乳類の肉類」については、TMDI計算では、牛・豚・その他の陸棲哺乳類に属する動物の筋肉、脂肪の摂取量にその範囲の基準値案で最も高い値を乗じ、EDI試算では、畜産物中の平均的な残留農薬濃度を用い、摂取量の筋肉及び脂肪の比率をそれぞれ80%、20%として試算した。

魚介類については、EDI試算では、水中の農薬濃度は内水面とそれ以外で約5倍もしくはそれ以上の差がある状況を考慮した値を暴露評価に用いた。

(参考)

これまでの経緯

昭和62年	4月13日	初回農薬登録
平成17年	11月29日	残留農薬基準告示
平成21年	2月4日	農林水産省から厚生労働省へ基準設定依頼（魚介類及び畜産物）
平成21年	2月17日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成21年	11月19日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成23年	3月15日	残留農薬基準告示
平成25年	3月29日	農林水産省より厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準設定依頼（適用拡大：みつば及びマンゴー）
平成25年	6月11日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成25年	8月5日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成26年	1月8日	薬事・食品衛生審議会への諮問
平成26年	1月17日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

● 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

[委員]

石井 里枝	埼玉県衛生研究所水・食品担当部長
延東 真	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科教授
○大野 泰雄	国立医薬品食品衛生研究所名誉所長
尾崎 博	東京大学大学院農学生命科学研究科獣医薬理学教室教授
斉藤 貢一	星薬科大学薬品分析化学教室教授
佐藤 清	一般財団法人残留農薬研究所業務執行理事・化学部長
高橋 美幸	農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所上席研究員
永山 敏廣	明治薬科大学薬学部薬学教育研究センター薬学教育部門教授
根本 了	国立医薬品食品衛生研究所食品部第一室長
宮井 俊一	一般社団法人日本植物防疫協会技術顧問
山内 明子	日本生活協同組合連合会執行役員組織推進本部長
由田 克士	大阪市立大学大学院生活科学研究科公衆栄養学教授
吉成 浩一	東北大学大学院薬学研究科薬物動態学分野准教授
鱒淵 英機	大阪市立大学大学院医学研究科分子病理学教授

(○：部会長)